

今こそしっかりした社会保障の仕組みについて議論すべきとき

高階 恵美子 参議院議員



国民生活の未来を描ける改革内容に

政府が提唱する「社会保障と税の一体改革」は、大言が先行し、それを享受すべき国民生活の実像を思い描くことが全くできないという状態が続いています。

本来、改革の柱をなすはずの具体的な中身が欠けており、まさしく「案(あん)のない殻(か)だけ」が強調されているものですから、一向に議論の積み上げの段階へと進むことができないのです。常会が始まって以降はとくに、話題となりやすい消費税の増税だけを切り出してこれを焦点化する戦法によって、世間の目が本筋から逸らされやすい弊



写真1



写真2

困気が醸成されてきました。このような状況に接しておりますと、国民として、社会保障の実現者である看護職として、立法審議にあたる国会の一員として、現在の国政に対する不信感は日増しに強くなるばかりです。しばしばニュースでは、現政府への信任が低いとか、各政党への支持率が軒並み低迷していると報道されていますが、これは、成果を出せない政治全体への怒りのあらわれと深刻に受け止め、私自身も引き締めています。

私たちはいまこそ冷静な目利きをしなければならぬ、その時を迎えていると思っております。

一月末に公表された日本の将来人口推計では、50年後は現在の7割程度、

らしを営んで行けるようになること

●高齢になっても人生を謳歌し、自分らしく生き終えることができること

一人ひとりのいのちを支える社会保障の仕組みは、実態からかけ離れたところで軽々に無秩序な組み換えが行われてはならないもの。この国で生活を営んでいく国民の姿を少し先まで具体的に見通して、現実を吟味しながら足腰のしっかりした制度論を展開していくなくてはなりません。

世代を超えた政治議論を

これからは、もっともっと若い世代の声を聞き、ともに社会への好奇心や未来に向かう意欲を喚起していく努力

をしたいとも考えています。

政治は誰のためにあるのか。

政治は、いまを生きる私たちや未来を生きる子どもたちのために、皆が必要とするルールを創り皆の悩みを解決する機能を果たしていくものです。このことを、年齢や立場にこだわることなく繰り返し話し合うことにより、お互いの理解が進み、新しいアイデアが浮かんでくる可能性もあります。そこで昨年末から、中・高・大学生、大学院生のみなさんとの意見交換会を開催させていただいています。

「東日本震災における救援・復興活動」、「看護職の国会議員の役割」、「社会における女性の活躍」など、参加者の関心に沿って自由にテーマを設定していただいています。

こうした意見交換会を通じ、世代間の交流は、各々の中に眠っている才能や長所を発見し成長させる好機にもなっていることを、改めて感じています。

とくに未来への伸びゆく力を備えた学生たちとの意見交換は、いつもと違う緊張感・責任感があり、刺激的です。社会との関係を意識しながら各々の人生を切り開いていく何らかのきっかけづくりができれば、これ以上の喜びはありません。(写真1～5は、学生のみなさんとの交流会の様子)

課題解決型の提案を加速させよう

また今春は、介護報酬と診療報酬の同時改定が行われました。これからは、こうした一連の作業が、医療・介護の現場で我々が抱えている課題の解決にどのような効果をあげていけるのかを厳しく検証していかなければなりません。

そのような意味では、改定の内容をいち早く共有し、実践に活用することや、使い勝手の悪いところを的確に指摘して見直しを求めていくことも重要です。第一線の気づきが声になり、必要な改善へとつながるようお互いの連携を強めて参りましょう。

近年は大学院で教育研究手法を身につけたり、看護学に加えて経営学を専攻する看護職も増えてきました。



写真5

こうした方々には、ぜひ現場で、日常の業務を科学して、そこから課題を浮き彫りにしていく取り組みを強化していただきたいと思います。

実践に根差した理論を持って政策提言できる専門家集団として、看護職がますます層の厚い活動を練り上げていけるよう、努めてまいります。

夜勤時間を含む労働環境の改善についても、技術評価の在り方にしても、身保障の問題にしても、終始一貫して、社会全体に対して説得力のある提案が求められます。

一つひとつ地道に、しかし諦めることなくコツコツと、みなさまとともに歩を進めていくことを、これからも大切に心がけてまいります。



写真3



写真4